

平成30年12月14日
日本学会議
健康・生活科学委員会
家政学分科会

(提言)「生きる力の更なる充実を目指した家庭科教育への提案—より効果的な家庭科教育の実現に向けて—」

1 現状及び問題点

(1) 小・中学校教育における家庭科教育の位置付けに関する現状と問題点

小学校の教科に「生活」、小・中学校には「道徳」や「総合的な学習」等の教科等が設定されている。これらの教科等は、「家庭生活を営み社会の中で生きることに関する領域」や「子どもを産み育てることに関する領域」等の家庭科の学習内容との重複が見られる。家庭科の特徴が出せるような明確な教科構成の検討が必要である。家庭科教育は小・中・高等学校と連続して授業が設定されてはいるが、中学校の教科名は「技術・家庭」として扱われ、「家庭」と「技術」に関する授業内容は必ずしも融合されていない。「家庭」と「技術」との授業の在り方や教科の設定等についても検討の必要がある。

(2) 小・中・高等学校における現行家庭科教育の授業内容に関する現状と問題点

家庭科は生活に関わる広範な内容を扱うことから、平成29年3月に提示された小・中学校の新学習指導要領や、平成30年3月に提示された現行の高等学校学習指導要領では、家庭科の扱う範囲が個人や家族を中心とする生活から広範な社会的課題を含む多くの事項を扱うようになり、更には新しく開発される情報・技術を扱うような内容が加わっている。

家庭科は「食べることに関する領域」「被服をまとうことに関する領域」「住まうことに関する領域」「子どもを産み育てることに関する領域」「家庭生活を営み社会の中で生きることに関する領域」の五つの領域からなり、内容が広範にわたり非常に多くのものを扱うことになる。しかも、学んだ知識・技術を生活の場面に当てはめて考え、応用し、実践していくことを目指す教科であるため、知識として知っているだけではなく、技術の習得を目指すためには、演習や実習を併用する必要があるが、現状ではそのための十分な授業時数が確保できていない。したがって、現状においては限られた授業時数の中で、「生きる（生命を維持する）」ために必要な基本的な知識・技術は何かを原点として、家庭科で習得すべき授業内容を厳選する必要がある。

(3) 高等学校教育における家庭科教育に関する現状と問題点

高等学校家庭科は、平成11年の学習指導要領改訂前はすべて4単位の科目が設定されていたが、改訂により講義が中心の家庭基礎2単位も選択可となった。家庭科

教育の重要な柱である実習・実験形態の授業は家庭基礎2単位では授業がし難いにもかかわらず、全国の高等学校における家庭科の採択傾向を見ると、家庭総合4単位よりは家庭基礎2単位選択校が改訂以降著しく増加し、現在では約8割を占めるまでになった。

2 提言

(1) 小・中学校教育における家庭科教育の位置付けを明確にする

小学校学習指導要領に記載されている教科の目的や内容を見ると、「家庭」、「生活」、「特別の教科である道徳」や「総合的な学習の時間」に記載されている文言には類似点が多いが、同じ文言であっても家庭科では内容として実生活と結び付けて扱うことを明確にする必要がある。

(2) 小・中・高等学校における家庭科教育の授業内容を明確にする

家庭科教育は小学校では第5学年からの開講、中学校では「技術・家庭」と表示され異なる2分野を各週で交互に開設する特殊な授業時数の取り決めとなっており、さらに高等学校では家庭科教育の重要な柱である実習・実験形態の授業が十分に実施できない、講義が主体の「家庭基礎」2単位も科目選択肢の一つに含まれており、この科目を選択する学校が8割近くになった。授業時数が少ないにもかかわらず、現行の家庭科関係の学習指導要領では5領域すべてについて膨大な内容が盛り込まれているので、全体を網羅することができない。その上、生命維持に欠かせない「食べることに係る領域」、「被服をまとうことに係る領域」、「住まうことに係る領域」に関しては特に実践学習を重視しなければならない。そこで実習・実験を多く必要とする3領域について、児童・生徒が生涯にわたって生活者として自立していくための基礎となる知識や技術を習得するために必要な実践学習を入れた授業内容及び小・中・高等学校間での関連を検討したモデル案を提示した。

(3) 高等学校家庭科には重要な柱である実習・実験形態の授業が不可欠である

成長著しく社会人としての自立の時期に近い高等学校においては、講義中心の家庭基礎に加え、生命維持に不可欠な3領域の実践学習、及び「子どもを産み育てることに関する領域」「家庭生活を営み社会の中で生きることに関する領域」を含めた全領域について実験・実習・演習の授業を少なくとも2単位分加えた厳選された内容による家庭科教育を行うことが望ましい。より効果的な家庭科教育の実現に向けた家庭科授業担当者の熱意と努力に期待したい。